

大学番号：私338

注3

[平成24年度設置]

計画の区分：研究科の専攻の設置

注1

届出

京都薬科大学大学院薬学研究科薬学専攻博士課程

注2

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 京都薬科大学
平成26年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 事務局 企画・広報課

職名・氏名 カチョウダイリ カワカツ アキヒロ
課長代理・川勝 章広

電話番号 075-595-4691

（夜間） 075-595-4691

F A X 075-595-4750

e-mail kawakatu@mb.kyoto-phu.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に
()書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部

(□□学部(平成◇◇年度より変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

※「留意事項実施状況報告書」の場合は、表題を修正してください。

3 大学番号の欄については、平成26年3月20日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目 次

1	調査対象大学等の概要等	1
2	授業科目の概要	5
3	施設・設備の整備状況，経費	10
4	既設大学等の状況	12
5	教員組織の状況	13
6	留意事項に対する履行状況等	20
7	その他全般的事項	21

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 京都薬科大学

(2) 大学名

京都薬科大学

(3) 大学の位置

〒607-8414
京都府京都市山科区御陵中内町5

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(タムラ マサアキ) 田村 正昭 (平成20年5月)	(タケダ レイジ) 武田 禮二 (平成23年5月)	任期満了に伴う退任のため 平成23年5月30日(24)
学長	(イヌイ ケンイチ) 乾 賢一 (平成22年4月)		
研究科長	(タケウチ コウジ) 竹内 孝治 (平成22年4月)	(コグレ ケンタロウ) 小暮 健太郎 (平成25年4月)	任期満了に伴う退任のため 平成25年4月1日(25)
学科長等	-		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 平成24年度に報告済の内容 → (24)
平成26年度に報告する内容 → (26)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ 様式は, 平成24年度開設の博士後期課程の場合(平成26年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称, 定員

調査対象研究科等の名称(学位)	設置時の計画			備考
	修業年限	入学定員	収容定員	
薬学研究科 薬学専攻(博士課程) 博士(薬学)	4年	10人	40人	基礎となる学部等 薬学部薬学科(6年制)

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	報告年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	10人 (-) [-]	—人	0.90倍 平成25年度秋入学1名(26)							
志願者数	11 (1) [1]	— (—) [—]	7 (3) [—]	1 (—) [—]	9 (1) [1]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]		
受験者数	11 (1) [1]	— (—) [—]	7 (3) [—]	1 (—) [—]	9 (1) [1]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]		
合格者数	11 (1) [1]	— (—) [—]	7 (3) [—]	1 (—) [—]	9 (1) [1]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]		
B 入学者数	10 (1) [1]	— (—) [—]	7 (3) [—]	1 (—) [—]	9 (1) [1]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]		
入学定員超過率 B/A	1.00		0.80		0.90					

- (注) ・ 数字は, 平成26年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 ・ 「社会人」については, 認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は, その他の学期欄は「—」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, 各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) -③ 調査対象研究科等の在学者の状況

学 年	平成24年度		平成25年度		平成26年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[1] 10	[-] —	[-] 7	[-] —	[1] 10	[-] 1	平成25年度入学生の1名が休学（2013.10.1～2014.3.31）したが、2014年4月に1年次に復学(26)
2年次	/		[-] 9	[-] —	[-] 6	[-] —	
3年次	/		/		[-] 8	[-] —	
計	[1] 10		[-] 16		[1] 25		

- (注) ・ 数字は、平成26年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成23年度 入学者	— 人	— 人	平成23年度	— 人	— 人	—	— %
			平成24年度	— 人	— 人	—	
			平成25年度	— 人	— 人	—	
			平成26年度	— 人	— 人	—	
平成24年度 入学者	10 人	2 人	平成24年度	1 人	1 人	家庭事情のため帰国	0.2 %
			平成25年度	1 人	0 人	一身上の都合	
			平成26年度	— 人	— 人	—	
平成25年度 入学者	8 人	0 人	平成25年度	0 人	0 人	—	0 %
			平成26年度	— 人	— 人	—	
平成26年度 入学者	9 人	0 人	平成26年度	— 人	— 人	—	0 %
合 計	27 人	2 人					0.1 %

(注)・数字は、平成26年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成26年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<薬学研究科薬学専攻>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専 門 科 目	薬化学特論	1~4前	1								兼 2 兼 3 兼 2 兼 3 兼 2 兼 3 兼 2	オムハス、隔年開講、集中 担当分担により、教員を追加(24) 担当 河井 伸之(助教)…兼担 辞任(退職)により、担当教員を削除(26) 担当 橋本 貴美子(准教授)…兼担 担当 河井 伸之(助教)…兼担 新規採用により、教員を追加(26) 担当 星谷 尚亨(助教)…兼担
	薬品化学特論	1~4前	1								兼 3 兼 2	オムハス、隔年開講、集中 新規採用により、教員を追加(25) 担当 小林 数也(助教)…兼担
	薬品製造学特論	1~4前	1			1		1		1		オムハス、隔年開講、集中 新規採用により、教員を追加(24) 担当 小島 直人(講師)
	代謝分析学特論	1~4前	1			1		1		1		オムハス、隔年開講、集中 辞任(退職)により、担当教員を削除(25) 担当 吉川 豊(講師)
	薬品分析学特論	1~4前	1			1	1	1		1		オムハス、隔年開講、集中 昇任(異動)により、教員を追加(25) 担当 武上 茂彦(准教授)
	生物物理化学特論	1~4前	1								兼 3 兼 2 兼 3	オムハス、隔年開講、集中 辞任(退職)により、担当教員を削除(25) 担当 土谷 博之(講師)…兼担 新規採用により、教員を追加(26) 担当 扇田 隆司(助教)…兼担
	生薬学特論	1~4前	1								兼 2 兼 3	オムハス、隔年開講、集中 辞任(退職)により、担当教員を削除(25) 担当 吉川 雅之(教授)…兼担
	公衆衛生学特論	1~4前	1								兼 2	オムハス、隔年開講、集中
	衛生化学特論	1~4前	1			1				1	2	オムハス、隔年開講、集中 辞任(退職)により、担当教員を削除(25) 担当 松尾 剛明(助教)
	生化学特論	1~4前	1			1	1				2 1	オムハス、隔年開講、集中 辞任(異動)により、担当教員を削除(25) 担当 山岸 伸行(准教授) 新規採用により、教員を追加(25) 担当 中山 祐治(教授) 新規採用により、教員を追加(26) 担当 久家 貴寿(助教)

「がん薬物療法を専門とする薬学研究者養成コース」履修者については、自由科目(1単位)とする。

専 門 科 目	感染制御学特論	1~4前	1	1	1	1	1	オムバス、隔年開講、集中 辞任(退職)により、担当教員を削除(24) 担当 奥田 潤(准教授)
	臨床薬学特論	1~4前	1	1	1	1	1	オムバス、隔年開講、集中
	薬物治療学特論	1~4前	1	1	1	1	1	オムバス、隔年開講、集中 辞任(退職)により、担当教員を削除(25) 担当 竹内 孝治(教授) 昇任(異動)により、教員を追加(25) 担当 加藤 伸一(教授) 昇任(異動)により、教員を追加(25) 担当 加藤 伸一(教授) 昇任(異動)により、教員を追加(26) 担当 天ヶ瀬 紀久子(講師) 新規採用により、教員を追加(26) 担当 松本 健次郎(助教)
	病態生化学特論	1~4前	1	1	1	1	1	オムバス、隔年開講、集中
	病態生理学特論	1~4前	1	1	1	1	1	オムバス、隔年開講、集中 新規採用により、教員を追加(24) 担当 芦原 英司(教授)
	薬理学特論	1~4前	1	1	1	1	1	オムバス、隔年開講、集中 新規採用により、教員を追加(24) 担当 大矢 進(教授) 辞任(退職)により、教員を削除(26) 担当 奈邊 健(准教授) 昇任(異動)により、教員を追加(26) 担当 藤井 正徳(准教授)
	臨床薬物動態学特論	1~4前	1	1	1	1	1	オムバス、隔年開講、集中 担当分担により、教員を追加(24) 担当 伊藤 由佳子(講師) 辞任(退職)により、教員を削除(26) 担当 高田 寛治(教授) 新規採用により、教員を追加(26) 担当 栄田 敏之(教授)
	薬剤学特論	1~4前	1	1	1	1	1	オムバス、隔年開講、集中
	細胞生物学特論	1~4前	1	1	1	1	1	オムバス、隔年開講、集中 大学院教育充実のため科目追加(24) 担当 藤室 雅弘(教授) 担当 賀川 裕貴(助教) 担当分担により、教員を削除(25) 担当 賀川 裕貴(助教)

「がん薬物療法を専門とする薬学研究者養成コース」履修者については、自由科目(1単位)とする。

専門科目	臨床医科学特論Ⅰ	1~4前		1		1	1				オムバス、隔年開講、集中 科目名変更(24)	「がん薬物療法を専門とする薬学研究者養成コース」履修者については、 必修科目(1単位)とする。
	臨床腫瘍学特論											
	臨床医科学特論Ⅱ	1~4前		1		1					オムバス、隔年開講、集中 科目名変更(24)	
	医薬品評価科学特論	1~4前		1		1		1			オムバス、隔年開講、集中 新規採用により、教員を追加(24) 担当 本橋 秀之(講師)	
	創薬腫瘍科学特論	1~4前		1		1				兼 3	オムバス、隔年開講、集中 「がん薬物療法を専門とする薬学 研究者養成コース」設置のため 科目追加(24) 担当 山下 正行(教授) 担当分担により、教員を削除(25) 担当 松田 久司(教授)…兼担 担当分担により、教員を追加(25) 担当 小島 直人(講師)…兼担	
	腫瘍細胞生物学特論	1~4前		1		1			1		オムバス、隔年開講、集中 「がん薬物療法を専門とする薬学 研究者養成コース」設置のため 科目追加(24) 担当 藤室 雅弘(教授) 担当 賀川 裕貴(助教) 担当分担により、教員を削除(25) 担当 賀川 裕貴(助教)	
	腫瘍薬剤学特論	1~4前		1		1		1		兼 1	オムバス、隔年開講、集中 「がん薬物療法を専門とする薬学 研究者養成コース」設置のため 科目追加(24) 担当 矢野 義孝(教授) 担当 本橋 秀之(講師)	
	25 小計(24科目)	-	0	25 24	0	20 19 13	5 4 7	8 7 4	7 10 8	-		
	総合薬学セミナー	1~4通	2			17 16 13	5 6 7	5 7 5	13 12 11		兼 11 兼 12 兼 13	
	薬学研究演習	1~4通	4			17 16 13	5 6 7	5 6 6	13 13 7		兼 5 兼 6 兼 7	
	課題研究	1~4通	20			17 16 13	5 6 7	5 6 7	13 13 7		兼 5 兼 6 兼 7	
	小計(3科目)	-	26	0	0	17 16 13	5 6 7	5 7 5	13 12 11	-		
	28 合計(24科目)	-	26	24	0	17 16 13	5 6 7	5 7 5	13 12 11	-		

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成25年度に認可された大学等は設置認可時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
なお、昨年度の報告書において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任、兼任の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 - ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目 3	科目 21	科目 —	科目 24	科目 3	科目 25	科目 —	科目 28	
				[0]	[4]	[—]	[4]	

- (注) ・ 未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する(資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。)とともに、[]内に、届出時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず，何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。
・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については，記入しないでください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり，何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0.00}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て，小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			
	校舎敷地	42,252 41,401㎡		0㎡	42,252 41,401㎡	借用地面積661㎡含 (2005.1.1~2024.12.31) 購入地851㎡(25)		
	運動場用地	14,056 16,620㎡		0㎡	14,056 16,620㎡	薬用植物園に用途変更 2,564㎡(26)		
	小 計	56,308 58,872 58,021㎡		0㎡	56,308 58,872 58,021㎡			
	そ の 他	21,867㎡		0㎡	21,867㎡	借用地面積354㎡含		
	合 計	78,175 80,739 79,888㎡		0㎡	78,175 80,739 79,888㎡	薬用植物園9,467㎡は 除く		
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	音楽系クラブ練習場			
	45,726 44,496 44,652 44,220㎡ (0㎡)		0㎡	45,726 44,496 44,652 44,220㎡ (0㎡)	建築のため(24) 登記簿面積に修正(25) 新築・取壊の結果 1,230㎡増加(26)			
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			
	20 26室	22 21室		2 3室 5室(補助職員 0人)	0室 (補助職員 人)	大学全体 情報処理演習室を 大演習室(226人)に改修(25)		
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数			専任教員・准教授室数に 変更(25)		
	薬学研究科 薬学専攻 博士課程		22 28 25 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	
	薬学研究科 薬学専攻 博士課程	141,000 [62,000] (135,454 [58,942]) (134,119 [58,893]) (136,974 [59,447]) (133,977 [59,012])	5,100 [4,300] (4,443 [3,870]) (4,361 [3,841]) (4,500 [3,929]) (4,365 [3,911])	3,300 [3,290] (3,163 [3,154]) (3,140 [3,131]) (3,129 [3,120]) (3,231 [3,224])	650 (663) (654) (699) (643)	15	0	大学全体
	計	141,000 [62,000] (135,454 [58,942]) (134,119 [58,893]) (136,974 [59,447]) (133,977 [59,012])	5,100 [4,300] (4,443 [3,870]) (4,361 [3,841]) (4,500 [3,929]) (4,365 [3,911])	3,300 [3,290] (3,163 [3,154]) (3,140 [3,131]) (3,129 [3,120]) (3,231 [3,224])	650 (663) (654) (699) (643)	15	0	
						(15)	(0)	

(6) 図書館	面積		閲覧座席数		収納可能冊数		大学全体設計上の収納可能冊数から実質収納冊数に変更(25)		
	1,554㎡		303 302		150,580 172,815				
(7) 体育館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要					体育館取壊 2014.5.1~2014.8.15 体育館新築 2014.8.16~2016.1.31 建て替え中の代替施設 元京都市立白川小学校 体育館809㎡を使用 アリーナ：624㎡ 多目的室：185㎡ (26)	
	2,267㎡		アリーナ410㎡		テニスコート3面				
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設年度	完成年度	区分	開設前年度	開設年度	完成年度	届出専攻全体
		教員1人当り研究費等	1,003 657千円	677 891 1,003 657千円	図書購入費	15,014千円	21,188 15,014千円	15,053 16,177 21,188 15,014千円	
								共同研究費等	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	800千円		700千円	700千円	700千円	—千円	—千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		積極的に外部資金の獲得に努める							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成26年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(26)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

4 既設大学等の状況

大学の名称	京 都 薬 科 大 学								備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
薬学部薬学科	6	360	—	2,160	学士(薬学)	1.06	平成18	京都府京都市 山科区御陵 中内町5	
薬学研究科薬科学専攻 博士前期課程	2	5	—	10	修士(薬科学)	1.20	平成22	同上	
薬学研究科薬科学専攻 博士後期課程	3	2	—	6	博士(薬科学)	1.67	平成24	同上	開設3年目
薬学研究科薬学専攻 博士課程	4	10	—	40	博士(薬学)	0.63	平成24	同上	開設3年目
薬学研究科薬学専攻 博士後期課程	3	—	—	—	博士(薬学)	—	昭和52	同上	平成24年度 から募集停止

(注) ・ 本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部, 学科), 大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について, それぞれの学校種ごとに, 平成26年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。(ただし, 専攻科に係るものについては, 記入する必要はありません。)

- ・ 「平均定員超過率」には, 標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点第2位まで(小数点第3位を切り捨て)を, 学科(短期大学において専攻課程を設置している場合には, 専攻課程)単位で記入してください。
- ・ 学生募集を停止している学部等がある場合, 入学定員と収容定員は「—」とし, 「備考」に「平成〇年より学生募集停止」と記入してください。
- ・ 大学, 短期大学においては学科単位(短期大学において専攻課程を置くときは専攻課程単位), 大学院においては専攻単位で記入してください。

5 教員組織の状況

<薬学研究科 薬学専攻（博士課程）>

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	山下 正行 (55)	平成24年4月	薬品製造学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究					薬品製造学特論※隔年 創薬腫瘍科学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究	
専	教授	北出 達也 (57)	平成24年4月	薬品分析学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究						
専	教授	安井 裕之 (47)	平成24年4月	代謝分析学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究						
専	教授	長澤 一樹 (46)	平成24年4月	衛生化学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究						
専	教授	後藤 直正 (60)	平成24年4月	感染制御学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究						
専	教授	秋葉 聡 (49)	平成24年4月	病態生化学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究						
専	教授	竹内 孝治 (64)	平成24年4月	薬物治療学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究	専	准教授	加藤伸一(後任) (46)	平成25年4月	薬物治療学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究	辞任(退職) 退職日: 2013.3.31 氏名: 竹内 孝治 理由: 退職のため 「薬物治療学特論」は他に担当者が2名いるため支障はない(25)
専	教授	中田 徹男 (54)	平成24年4月	臨床医科学特論Ⅰ※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究					臨床医科学特論 臨床医科学特論Ⅰ※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究	平成24年度から科目名変更 (25)
専	教授	吉貴 達寛 (58)	平成24年4月	臨床医科学特論Ⅱ※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究					臨床腫瘍学特論 臨床医科学特論Ⅱ※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究	平成24年度から科目名変更 (25)
専	教授	山本 昌 (54)	平成24年4月	薬剤学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究						

専	教授	高田 寛治 (63)	平成24年4月	臨床薬物動態学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究	専	教授	柴田敏之(後任) (53)	平成26年4月	臨床薬物動態学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究	専任(退職) 退職日: 2014. 3. 31 氏名: 高田 寛治 理由: 退職のため 「臨床薬物動態学特論」は他に 担当者2名いるため支障 はない(26)
専	教授	西口 工司 (46)	平成24年4月	臨床薬学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究						
専	教授	矢野 義孝 (49)	平成24年4月	医薬品評価科学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究					医薬品評価科学特論※隔年 腫瘍薬剤学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究	
専	准教授	奥田 潤 (44)	平成24年4月	感染制御学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究			後任未定			専任(退職) 退職日: 2012. 3. 31 氏名: 奥田 潤 理由: 退職のため 「感染制御学特論」は他に担 当者が2名いるため支障はな い(24)
専	准教授	山岸 伸行 (43)	平成24年4月	生化学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究	専	教授	中山祐治(後任) (45)	平成24年7月	生化学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究	専任(異動) 異動日: 2013. 4. 1 氏名: 山岸 伸行 異動先: 放射性同位元素研究 センター(25)
専	准教授	北村 佳久 (51)	平成24年4月	病態生理学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究						
専	准教授	加藤 伸一 (45)	平成24年4月	薬物治療学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究			教授			教授に昇任したため(25)
専	准教授	小原 幸 (48)	平成24年4月	臨床医科学特論 I ※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究					臨床医科学特論 臨床医科学特論 I ※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究	平成24年度から科目名変更 (25)
専	准教授	奈邊 健 (46)	平成24年4月	薬理学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究	専	准教授	藤井 正徳 (37)	平成26年4月	薬理学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究	専任(退職) 退職日: 2014. 3. 31 氏名: 奈邊 健 理由: 退職のため 「薬理学特論」は他に担当者 が2名いるため支障はない (26)
専	准教授	坂根 稔康 (50)	平成24年4月	薬剤学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究						
専	講師	武上 茂彦 (39)	平成24年4月	薬品分析学特論※隔年 総合薬学セミナー		准教授			薬品分析学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究	准教授に昇任したため(25) 担当科目追加のため(25) 海外留学(2014. 4. 1~ 2015. 3. 31)(26)
専	講師	吉川 豊 (38)	平成24年4月	代謝分析学特論※隔年 総合薬学セミナー			後任未定			専任(退職) 退職日: 2013. 3. 31 氏名: 吉川 豊 理由: 退職のため 「代謝分析学特論」は他の担 当者代行するため支障はない (25)

専	講師	石原 慶一 (38)	平成24年4月	病態生化学特論※隔年 総合薬学セミナー					病態生化学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究	担当科目追加のため(25)
専	講師	伊藤 由佳子 (41)	平成24年4月	総合薬学セミナー					臨床薬物動態学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究	担当科目追加のため(25)
専	講師	辻本 雅之 (35)	平成24年4月	臨床薬学特論※隔年 総合薬学セミナー					臨床薬学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究	担当科目追加のため(25)
専	助教	岩崎 宏樹 (32)	平成24年4月	薬品製造学特論※隔年 総合薬学セミナー					薬品製造学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究	担当科目追加のため(25)
専	助教	西田 健太郎 (33)	平成24年4月	衛生化学特論※隔年 総合薬学セミナー					衛生化学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究	担当科目追加のため(25)
専	助教	松尾 剛明 (30)	平成24年4月	衛生化学特論※隔年 総合薬学セミナー				後任未定		辞任(退職) 退職日: 2012.9.30 氏名: 松尾 剛明 理由: 退職のため 「衛生化学特論」は他に担当 者が2名いるため支障はない (25)
専	助教	皆川 周 (35)	平成24年4月	感染制御学特論※隔年 総合薬学セミナー					感染制御学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究	担当科目追加のため(25) 休職(2014.2.6~ 2014.8.5)(26)
専	助教	齊藤 洋平 (35)	平成24年4月	生化学特論※隔年 総合薬学セミナー					生化学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究	担当科目追加のため(25)
専	助教	高田 和幸 (35)	平成24年4月	病態生理学特論※隔年 総合薬学セミナー					病態生理学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究	担当科目追加のため(25)
専	助教	石原 紀久子 (41)	平成24年4月	薬物治療学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究	専	講師	天ヶ瀬 紀久子 (43)	平成25年10月		担当科目追加のため(25) 講師に昇任したため(26)
専	助教	鳥羽 裕恵 (34)	平成24年4月	総合薬学セミナー					総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究	担当科目追加のため(25) 海外留学(2013.8.1~ 2015.7.31)(26)
専	助教	藤井 正徳 (35)	平成24年4月	薬理学特論※隔年 総合薬学セミナー	専	准教授			薬理学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究	担当科目追加のため(25) 准教授に昇任したため(26)

専	助教	飯居 宏美 (31)	平成24年4月	総合薬学セミナー					総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究	担当科目追加のため(25)
専	助教	勝見 英正 (32)	平成24年4月	総合薬学セミナー					総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究	担当科目追加のため(25) 海外留学(2013.9.1~ 2015.1.31)(26)
兼任	教授	上西 潤一 (60)	平成24年4月	薬化学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究					薬化学特論※隔年 創薬腫瘍科学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究	
兼任	教授	赤路 健一 (57)	平成24年4月	薬品化学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究					薬品化学特論※隔年 創薬腫瘍科学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究	
兼任	教授	吉川 雅之 (64)	平成24年4月	生薬学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究	兼任	教授	松田久司(後任) (57)	平成25年4月	生薬学特論※隔年 創薬腫瘍科学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究	辞任(退職) 退職日:2013.3.31 氏名:吉川 雅之 理由:退職のため 「生薬学特論」は他に担当 者が2名いるため支障はない (25)
兼任	教授	小暮 健太郎 (45)	平成24年4月	生物物理化学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究						
兼任	教授	渡辺 徹志 (53)	平成24年4月	公衆衛生学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究						
兼任	准教授	橋本 貴美子 (50)	平成24年4月	薬化学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究			後任未定			辞任(退職) 退職日:2014.3.31 氏名:橋本 貴美子 理由:退職のため 「薬化学特論」は他に担当 者が2名いるため支障はない (26)
兼任	准教授	松田 久司 (56)	平成24年4月	生薬学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究		教授			生薬学特論※隔年 創薬腫瘍科学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究	教授に昇任したため(25)
兼任	講師	土谷 博之 (35)	平成24年4月	生物物理化学特論※隔年 総合薬学セミナー	兼任	講師	濱 進(後任) (36)	平成25年4月	生物物理化学特論※隔年 総合薬学セミナー	辞任(退職) 退職日:2012.12.31 氏名:土谷 博之 理由:退職のため 「生物物理化学特論」は他 に担当者が2名いるため支 障はない(25)
兼任	助教	河井 伸之 (39)	平成24年4月	薬化学特論※隔年 総合薬学セミナー	兼任	助教	星谷尚亨(後任) (35)	平成26年4月	薬化学特論※隔年 総合薬学セミナー	辞任(退職) 退職日:2014.3.31 氏名:河井 伸之 理由:退職のため 「薬化学特論」は他に担当 者が2名いるため支障はない (26)
兼任	助教	相馬 洋平 (33)	平成24年4月	薬品化学特論※隔年 総合薬学セミナー	兼任	助教	服部 恭尚 (33)	平成23年10月	薬品化学特論※隔年 総合薬学セミナー	辞任(退職) 退職日:2012.3.31 氏名:相馬 洋平 理由:退職のため(24)

兼任	助教	中村 誠宏 (36)	平成24年4月	生薬学特論※隔年 総合薬学セミナー		准教授				准教授に昇任したため (26)	
兼任	助教	濱 進 (35)	平成24年4月	生物物理化学特論※隔年 総合薬学セミナー		講師				講師に昇任したため (25)	
兼任	助教	長谷井 友尋 (32)	平成24年4月	公衆衛生学特論※隔年 総合薬学セミナー							
						専	講師	小島 直人 (36)	平成24年4月	薬品製造学特論※隔年 創薬腫瘍科学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究	新規採用のため (24) 担当科目追加のため (25)
						専	教授	藤室 雅弘 (44)	平成23年7月	細胞生物学特論※隔年 腫瘍細胞生物学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究	新規採用のため (24) 担当科目追加のため (25)
						専	助教	賀川 裕貴 (28)	平成24年4月	細胞生物学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究	新規採用のため (24) 担当科目変更のため (25)
						専	教授	芦原 英司 (50)	平成24年4月	病態生理学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究	新規採用のため (24)
						専	教授	大矢 進 (43)	平成24年4月	薬理学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究	新規採用のため (24)
						専	講師	本橋 秀之 (40)	平成23年7月	医薬品評価科学特論※隔年 腫瘍薬剤学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究	新規採用のため (24) 担当科目追加のため (25)
						兼任	教授	乾 賢一 (65)	平成24年4月	腫瘍薬剤学特論※隔年	学長講義担当のため (24)
						専	助教	林 直樹 (28)	平成25年4月	感染制御学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究	新規採用のため (25) 担当科目追加のため (26)
						専	助教	草森 浩輔 (29)	平成25年4月	総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究	新規採用のため (25)

					兼任	助教	小林 数也 (29)	平成24年10月	薬品化学特論※隔年 総合薬学セミナー	新規採用のため(25)
					専	助教	久家 貴寿 (35)	平成25年7月	生化学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究	新規採用のため(26)
					専	助教	松本 健次郎 (39)	平成26年1月	薬物治療学特論※隔年 総合薬学セミナー 薬学研究演習 課題研究	新規採用のため(26)
					兼任	助教	扇田 隆司 (27)	平成26年4月	生物物理化学特論※隔年 総合薬学セミナー	新規採用のため(26)

- (注) ・ 設置時の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- なお、当該設置に係る研究科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、〈〇〇研究科 〇〇専攻(〇〇課程)〉の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。
- ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 - ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 - ・ 年齢は、「**設置時の計画**」には当該学部等の就任時における満年齢を、「**変更状況**」には平成25年5月1日現在の満年齢を記入してください。
 - ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
 なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数

設置時の計画			変更状況			年齢構成	
研究指導教員	研究指導 補助教員	計	研究指導教員	研究指導 補助教員	計	教員の 定年年齢	定年を延長 している教員数
36	0	36	41	0	41	65	0
(41)	(0)	(41)	[5]	[0]	[5]	歳	名

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成26年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：△1)
- ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、および、平成26年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数を記入してください。
 - ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

番 号	職 位	専任教員氏名	辞任（就任辞退を含む）等の理由
1	教授	高田 寛治	定年退職のため
2	准教授	奈邊 健	他大学割愛のため

- (注) ・ 専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。
・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任（就任辞退を含む）等の理由」に辞任理由等および（）書きで報告年度を記入してください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

番号1および番号2の辞任については、それぞれ後任を充てているので特に問題はないと考えている。
学生への周知方法については、2014年度大学院シラバスにより周知済みである。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (平成24年5月)	留意事項なし	—	—
設置計画履行状況 調 査 時 (平成25年5月)	留意事項なし	—	—
設置計画履行状況 調 査 時 (平成26年5月)	留意事項なし	—	—
設置計画履行状況 調 査 時 (平成27年5月)			

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された留意事項に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況は、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

7 その他全般的事項

<薬学研究科 薬学専攻（博士課程）>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
① 修了要件単位数 32単位 必修科目26単位、選択科目6単位	①平成24年度大学改革推進等補助金「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」（平成26年度で3年目となる）に採択されたことから、本専攻に「がん薬物療法を専門とする薬学研究者養成コース」を設置した。今年度は4名の学生が同コースに在籍している（前年度は3名）。同コースの学生は修了要件を「必修科目32単位 選択科目0単位」としているが、同コース以外の学生については、計画どおり「必修科目26単位 選択科目6単位」としている。

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況 京都薬科大学FD委員会（常設）</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） 毎年委員会を開催している。学長を委員長とし、副学長（教務部長）と教員7名（薬学専門教育科目担当3名・専門基礎、外国語、人文社会および体育科目担当から3名）が委員に委嘱され、委員会に参加している。</p> <p>c 委員会の審議事項等 本学のFDに関する事項を審議する。</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種FD研修会への教員派遣。 ・FDに関する講演会の学内実施 ・教員相互の授業参観 <p>b 実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会は主に学外のFD研修会を活用している。 ・講演会は主に学部講師を招へいし実施している。 <p>c 開催状況（教員の参加状況含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FD研修会への参加（年間10件程度）については、主にコアとなる教員を派遣している。 ・学内講演会の場合は、ほぼ全員の教員の参加がある。 <p>d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会および講演会での成果を各教員が担当科目に活用することを主な取り組みとしている。 <p>③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況</p> <p>a 実施の有無及び実施時期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケートは、学部科目について「前期」および「後期」に実施している。 <p>b 教員や学生への公開状況、方法等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員には、アンケート結果と各教員が作成したリフレクション・ペーパーを報告書にまとめ配付している。 ・学生には、その報告書（冊子）を図書館のみにて閲覧可能として、一定期間公開している。

- (注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

「愛学躬行」という建学の精神に基づき、「国民の健康を支える医療人として、生命の尊厳を基盤とし、人類の健康と福祉に貢献すること」を教育理念とし、医療に関する幅広い専門知識、豊かな教養と人間性、高い倫理観を兼備した医療を支える薬剤師を養成すること、さらに、創薬科学、環境科学、社会科学などの分野で貢献できる有為な人材を育成することを目的としている。卒業生全員に薬剤師免許を取得させることを教育の根幹とし、質の高い薬剤師として活躍できる人材の養成と、先端的で高度な研究が行える大学として、特色ある基礎および臨床薬学教育の推進を目標としている。

研究科では、薬学専攻博士課程（4年制）に「がん薬物療法を専門とする薬学研究者養成コース」を設置したこと。また、研究活動では、京都4大学連携（京都工芸繊維大学、京都府立医科大学、京都府立大学、京都薬科大学）での研究交流・共同研究を推進していること等が挙げることができる。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・平成27年3月 公表予定

b 公表方法

・自己点検・評価報告書を刊行し、大学コンソーシアム京都加盟大学および薬系大学に送付する。
・大学ホームページ上に公開する。

③ 認証評価を受ける計画

・平成26年度に評価機関（薬学教育評価機構）の評価受審が決定し、平成26年度は点検年度である。
・平成27年度に評価機関（大学基準協会）の評価を受けるため、学内で準備中である。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無

(有 ・ 無)

b 公表時期（未公表の場合は予定時期）

(2014年 6月 1日)